

上海日本人学校浦東校の英語教育における小・中・高接続のための CAN-DOリストの作成・活用の考察と実践

前上海日本人学校浦東校教諭

熊本県天草市立稜南中学校教諭 岡崎 卓

キーワード：在外教育施設、小・中・高連携、英語教育、CAN-DOリスト

1. はじめに

上海市は、中国の東にあり、長江の支流である黄浦江が流れている。中国の都市でも最大規模であり、中国の金融、交通、貿易などの中心の1つである。私が赴任した上海日本人学校浦東校は、2006年に上海日本人学校虹橋校の大幅な生徒数増加により新たに開校した。現在、小中学生合わせて約1000名が在籍している。また、上海日本人学校浦東校キャンパスには、世界で唯一の日本人学校高等部もあり、小学部、中学部、高等部の学部を超えた児童生徒の交流も行われている。

その3学部でともに学ぶキャンパスの利点を、英語教育にも生かせないかと思い、3年間研究を積み重ねてきた。各学部との英語科における連携はもちろんであるが、とりわけ、CAN-DOリストについて試行錯誤を重ねてきた。その事例を以下に説明していく。

2. CAN-DOリストの作成と他学部との連携

(1) CAN-DOリストの作成について

赴任した当時、上海日本人学校にはCAN-DOリストが存在せず、それぞれの教師の考えや学年の目標に沿って、英語教育を行っている状態で、学年や学部間の系統をふまえた指導がなかなかできない状態であった。また、中学部の生徒が3年間学ぶ間に、毎年英語の、担当者が変わることも珍しくない状態であり、何らかの対策を打ちたいと考えた。そこで私は、学年や学部を見通したCAN-DOリストの作成が必要であると考え、上海日本人学校のCAN-DOリストを英語科で作成した。それが、表1である。

CAN-DOリストを作成する際、小学部の英会話担当と高等部の英語担当者と意見交換しながら、打ち合わせを重ねた。また、各学部の授業を参観し、それらを生かして作成の相談などを行うこともできた。作成においてのポイントは、それぞれの技能で小学部から高等部までつながりを持たせていることである。これを生徒に配付し見通しをもたせ、生徒自身が今後身に付けるべきことを明確にイメージしながら、目標達成にむけて英語学習に励むことができると考えた。

上海日本人学校 英語科 CAN DO リスト

積 種	小学校		中学部			高等部	
	中学年	高学年	第1学年	第2学年	第3学年	第1学年	第3学年
聞くこと	「 1 」で記述して聞かれた会話文の内容を、聞き取ることができる。	「 2 」で記述して聞かれた会話文の内容を、聞き取ることができる。	「自己紹介、お礼、ステータス」を聞いて主な内容を聞き取ることができる。	「自己紹介、お礼、ステータス」を聞いて、特定の「 3 」についての詳細を聞いて、要約や感想を聞き取ることができる。	「自己紹介、お礼、ステータス」を聞いて、内容の要約や感想を聞き取ることができる。	「自己紹介、お礼、ステータス」を聞いて、内容の要約や感想を聞き取ることができる。	「自己紹介、お礼、ステータス」を聞いて、内容の要約や感想を聞き取ることができる。
読むこと		「簡単な英語の読み本」を読み、大まかな内容を理解することができる。	「簡単な文章や物語」を読み、その主な内容を聞き取ることができる。	「レポートやニュース、新聞や短文」を読み、その主な内容を聞き取ることができる。	「新聞や伝説、記事」を読み、その主な内容を聞き取ることができる。	「まとまりのある読み本」を読み、大まかな内容を理解することができる。	「英語新聞など」を読み、その主な内容を理解することができる。
話すこと (行動的)	「自分の身のこたについて話したり、それらに同意や反対を述べたりすることができる。	「自分の身のこたについて話したり、それらに同意や反対を述べたりすることができる。	「自分の身のこたや体験したことなどについて話したり、それらに同意や反対を述べたりすることができる。	「自分の身のこたや体験したことなどについて話したり、それらに同意や反対を述べたりすることができる。	「自分の身のこたや体験したことなどについて話したり、それらに同意や反対を述べたりすることができる。	「自分の身のこたや体験したことなどについて話したり、それらに同意や反対を述べたりすることができる。	「自分の身のこたや体験したことなどについて話したり、それらに同意や反対を述べたりすることができる。
話すこと (発表)	「自分の身のこたについて簡単な報告や発表を行うことができる。	「自分の身のこたや体験したことなどについて話したり、それらに同意や反対を述べたりすることができる。	「自分の身のこたや体験したことなどについて話したり、それらに同意や反対を述べたりすることができる。	「自分の身のこたや体験したことなどについて話したり、それらに同意や反対を述べたりすることができる。	「自分の身のこたや体験したことなどについて話したり、それらに同意や反対を述べたりすることができる。	「自分の身のこたや体験したことなどについて話したり、それらに同意や反対を述べたりすることができる。	「自分の身のこたや体験したことなどについて話したり、それらに同意や反対を述べたりすることができる。
書くこと	「簡単な文を書くことができる。	「簡単な文の中から単語を選び、文を書くことができる。	「自分の身のこたや体験したことなどについて話したり、それらに同意や反対を述べたりすることができる。	「自分の身のこたや体験したことなどについて話したり、それらに同意や反対を述べたりすることができる。	「自分の身のこたや体験したことなどについて話したり、それらに同意や反対を述べたりすることができる。	「自分の身のこたや体験したことなどについて話したり、それらに同意や反対を述べたりすることができる。	「自分の身のこたや体験したことなどについて話したり、それらに同意や反対を述べたりすることができる。

表1 作成した、小中高連携したCAN-DOリスト

(2) 他学部との連携

上海日本人学校には、小学部と中学部が併設されており、職員室も同じである。そこで、小学部・中学部の

教員が集まりやすい利点を生かし、英語教科部会を行った。今年度は、6月26日、7月21日、9月2日、1月7日の年4回実施した。小学部と中学部の英語担当が集まって、学年や学部での課題や、それについての解決策を同席しているメンバーで話し合った。今年度の英語教科部会で話題となったことを一部紹介する。

○＜小学部より＞

- ・CAN-DOリストを作成しているが、外国語活動を元にリストを作成するのはなかなか難しいところであるが、中学部の英語科の活動を見据え、作成を行いたい。
- ・外国語活動では、定期的にALT（外国語指導助手）による指導がありJTE（日本人英語指導者）と協働しているが、効果的な活動をできる授業を増やしていきたい。また、モジュール学習であるドラゴンタイムでは、DVDを活用しながらのアクティビティを行っている。
- ・英会話のライティングテストでは暗記力のチェックとしてではなく、正しく理解できているかを見るために、選択肢から空欄補充での習得状況を確認しているところである。

＜中学部より＞

- ・外国語活動で行った活動をスパイラルに行うために、小学校段階で何を教えているのかの情報共有を行う必要がある。上海日本人学校虹橋校、浦東校の2校からと日本の小学校から編入してくる生徒など多岐にわたるが、浦東校で行っているカリキュラムを参考とし、カリキュラムを作成することが大切かもしれない。外国語活動や英会話などで学んだことをリンクさせスパイラルに学ぶ機会を提供することが必要である。
- ・ICTの活用に関しても小学校の外国語活動を参考にして、より効果的な活用方法を模索していきたい。
- ・小学6年生に、中学1年生になった場合どのような授業が行われるのかを、中学部の英語科教員で出張授業を行い、体験させるのも良いかもしれない。
- ・CAN-DOリストが作成途中であるが、上手く活用できていない状況があるので、修正を加え改善していきたい。

まとめとして、今年度の教科部会では、CAN-DOリストをいかして、どのような授業を展開する必要があるのか、また、小中の連携をさらに深めていくために、お互いの授業を参観したり、T2として授業に参加したりすることや、また、日頃からスムーズな小・中の接続などに関して議論できる環境をつくり、実行していくことを共通理解した。時間をつくり、小学部の先生に授業を参観してもらい、中学校での活動で使用する教室英語や、授業形態などを把握してもらい、小学校の外国語活動の際の参考にしてもらった。

さらに、小学校の英会話などの授業を参観することで、ALTが使用している教室英語や、目標としている状態を把握することができ、小中の9年間を見通した英語科のCAN-DOリストを作成することが可能となった。両学部で一貫した目標があれば、スムーズな接続ができ、外国語活動から英語学習に移行する際も、児童生徒は見通しをもって対処できるのではないかと考えている。

3. CAN-DOリストの活用と実践

(1) CAN-DOリストの生徒との共有について

上海日本人学校浦東校の英語の授業は、一斉授業で行われている。教室には、英検1級を取得している生徒から、英語を苦手としている生徒まで、様々な英語のレベルの生徒がおり、その幅は日本の学校よりもさらに大きい。多様なレベルの生徒に対応し、それぞれの目標に向け、英語を積極的に学ぶためにもこのCAN-DOリストが有効であると考えた。

例えば、CAN-DOリストを活用することで、英語が得意な生徒は、高等部3年生までのリストを参照し、求められる内容が明らかになる。そして、どの部分まで自分が達成しており、どのような力をつけていくべきかが明確になる。それにより、自律した学習者育成につながり、英語が得意な生徒が更に積極的に授業を受けることが可能になると考えた。

また、英語に対して苦手意識をもつ生徒に対しても、達成すべきゴールを具体化することが可能になり、中学校を卒業するまで、どのような力をつけるべきかが明確になると思う。

同時にCAN-DOリストを活用することで、教師側も生徒の状況を把握し、より効果的な授業展開を行うことができ、個に応じた指導が可能であると考えられる。そこで、上海日本人学校中学部英語科では、学年ごとにCAN-DOリストを細分化したものを作成した。それが表2である。

まず、年度初めに表1のCAN-DOリストを配付する。また、教員は、学期が終わるごとに表2を配付し、生徒がどの部分までできているか自己評価をして振り返ることができるようにした。7月、12月、2月と学期ごとにチェックすることで、自分の変化、成長を確認し、さらに身につけたい内容、力を明確にさせられる。それが意欲づけともなり、チェックする数も増えていく生徒が多く見られた。

また、教師は、それらを回収し生徒の実態把握を行い、次の学期の方策を立てることができる。自己評価となるが、生徒個人がどのような状態なのかを把握することもでき、個に応じた指導を展開することが可能になると推察される。今年度は2月が休校となり実施できなかったが、CAN-DOリストを活用することで、1年間を通して生徒の変容を見ることができると思う。

(2) CAN-DOリストを活用した授業展開

ここでは、CAN-DOリストをどのように授業に活用しているかを紹介したい。表3はCAN-DOリストを活用した授業設計である。私は、年間を通じた単元計画を立てる際に、CAN-DOリストを活用した。CAN-DOリストをもとに、単元計画を立てることができる、単元などの内容や時間のまとまりを通して、一単位時間の授業を構成することができた。

特に、単元計画を立てる際には、「英語を使って何ができるようになるか」を明確にして、生徒にも分かり易い内容にした。

また、授業計画においては、単元目標達成に向けた目標の設定と共に、目標達成するための言語活動の設定を行い、授業で実践を重ねた。最後に、まとめと振り返りの部分では、教師が生徒を看取り、何ができるようになったかを振り返り、

SJS Can Do List		R1	Grade 7		
7th grade class() No.() Name()		あてはまる、「はい」以外ではまるは止まるものに○をつけてください。			
目標	到達目標	自己評価			
		7月	12月	2月	
学年末	1 文章や物語を読み、その主な内容を読み取ることができる。				
	2 物語文を読み、場面の変化や登場人物の心理などを読み取ることができる。【Lit】				
	3 友達などの紹介文や、学校紹介文を読み、その情報を読み取ることができる。【Lit/DIS】				
	4 人の好きなことや習慣的に行っていることを読み取ることができる。【Lit/Pst】				
	5 日常生活の身近な事柄を簡単な文を理解することができる。【Lit play tennis every day】				
学年末	1 アルファベットを綴ることができる。				
	2 アルファベットの大文字と小文字がわかる。【A/a, F/fと母音】				
	3 日記や手紙、ニュースレター(作り、おいて)、招待状()、感謝状()を理解することができる。				
	4 日常生活の身近な単語を綴ることができる。【例 dog, eat, happy】				
	5 簡単な自己紹介、挨拶、スピーチなどを書いて、主な内容を聞き取ることができる。【A/A, Pst】				
学年末	1 簡単な自己紹介をすることができる。【Lit USIA/Pst】				
	2 日常生活の身近な単語や数字を書き取ることができる。【例 dog, eat/happy】				
	3 アルファベットを書き取ることができる。				
	4 自分自身のことや体験したことなどについて書きたることや好きなことや興味のあることについて書くことができる。【Lit USIA/Pst】				
	5 自分や友達の良い面について書くことができる。【Lit USIA/Pst】				
学年末	1 簡単な自己紹介をすることができる。【Lit USIA/Pst】				
	2 日常生活の身近な単語や数字を書き取ることができる。【例 dog, eat/happy】				
	3 アルファベットを書き取ることができる。				
	4 自分自身のことや体験したことなどについて書きたることや好きなことや興味のあることについて書くことができる。【Lit USIA/Pst】				
	5 自分や友達の良い面について書くことができる。【Lit USIA/Pst】				
学年末	1 簡単な自己紹介をすることができる。【Lit USIA/Pst】				
	2 日常生活の身近な単語や数字を書き取ることができる。【例 dog, eat/happy】				
	3 アルファベットを書き取ることができる。				
	4 自分自身のことや体験したことなどについて書きたることや好きなことや興味のあることについて書くことができる。【Lit USIA/Pst】				
	5 自分や友達の良い面について書くことができる。【Lit USIA/Pst】				

表2 SJS CAN DO LISTを細分化したもの

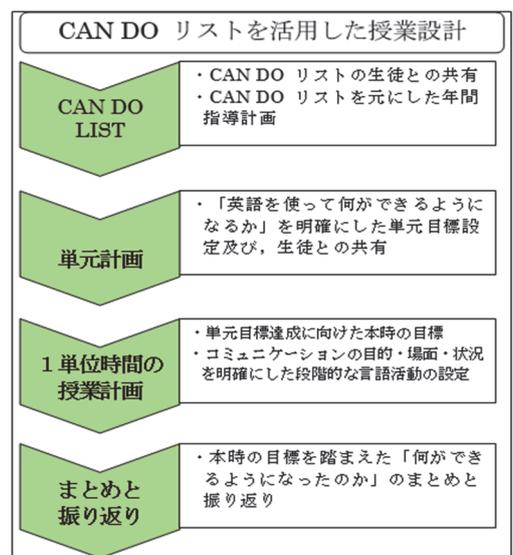


表3

(1) で述べたように学期ごとにCAN-DOリス

トで振り返った。CAN-DOリストを照らし合わせ、授業の改善につなげるという一連の流れを構築することができた。

4. 研究の成果と課題

成果として3点が考えられる。まず、CAN-DOリストを作成したことで生徒がより具体的に目標を定め、授業に参加するようになったことである。年度の初めにリストを見ることで目標が明らかになり、今まで以上に、生徒が授業に積極的に参加する生徒が増えた。

次に、英語科職員間でのやり取りが以前と比べ活発になったことが挙げられる。一昨年度まで、教科会は年に2回しか行われなかった。それが、今年度はCAN-DOリストを作成するにあたり、英語科スタッフで多く集まり小中学部で4回、中学部のみで5回も英語科部会を実施できた。CAN-DOリストについてはもちろんだか、それに付随して、評価のあり方や授業展開に関しても情報共有を行うことにつながった。

最後に自分自身が、CAN-DOリストを意識することで、より目標にむけた授業をデザインし、工夫するようになった。特別な時だけに意識するのではなく、常に意識できるよう、日常的にCAN-DOリストを見ながら、授業準備を行うよう心がけた。授業案を作成するノートの表紙に貼り、授業で扱っていない項目がないかどうかをチェックしたり、特に意識したい項目はハイライトして授業でも取り扱ったりして実践を積み重ねることができた。ただし、CAN-DOリストはあくまで、手段であり、目的に特化しすぎないようにしたい。

課題として次の2点をあげたい。まず、CAN-DOリストを作成するのに時間がかかったことである。在外教育施設はそれぞれの自治体から教師が派遣されるので、それぞれの自治体のやり方などがあり、意見の集約が大変困難であり、CAN-DOリストの作成にも時間がかかった。今年度の課題を引き継ぎ、来年度のスタッフで集まり検討して、毎年改良する必要がある。

次にCAN-DOリストの周知徹底である。学校内での取り組みで終わるのではなく、保護者への発信なども検討したい。今年度はCAN-DOリストを作成し、実践を重ねてきたが、今後は、学年間や教師間でCAN-DOリストの活用をさらに深め、さらに授業改善に役立てていくことが必要である。来年度は、それぞれの学部でCAN-DOリストをどのように活用するのか情報共有を行い、研修を深めていきたい。また、保護者へ周知するために、学校のホームページなどを活用する方法も検討したい。

5. おわりに

毎時間の授業が終わる度に、設定した目標に生徒が到達したか気になる場所であるが、同時に、CAN-DOリストを元にした指導や評価を通して、生徒の内的動機付けがしっかりと高まっているかどうかも考え、これからも自律した学習者を育てていきたい。目の前にいる生徒たちの力を伸ばしていくことが我々教師の役目であることは変わらないと思う。生徒たちの英語力を伸ばすためには、我々教師が指導力を高めていくことが今後も必要だと思う。今後も、CAN-DOリストを活用しながら英語が「できた」「わかった」、そして「楽しい」「好き」と多くの生徒達が実感できる授業作りに邁進したい。